

アドインピックアップ検品プログラム
for アシスタック Pro BHT-800 Ver1.20
取扱説明書 第5版



2011年 1月 10日
コンピュータ・アシスト株式会社



目次

1	プログラム動作環境	1
2	プログラムのインストール	1
2-1	アドインピッキング検品プログラムダウンロード	1
2-2	ピッキング検品プログラムの動作設定	3
1)	動作モード	4
2)	データ区分	6
3)	伝票区分	19
4)	ピッキング/検品マスター	20
5)	ピッキング/検品処理画面	22
6)	処理結果	23
7)	設定更新	26
2-3	業務設更新	27
3	アドインピッキング検品プログラム実行	28
3-1	検品モード	28
3-2	ピッキングモード	30
3-3	入力/データ処理エラー表示	32
3-4	処理結果送信	33

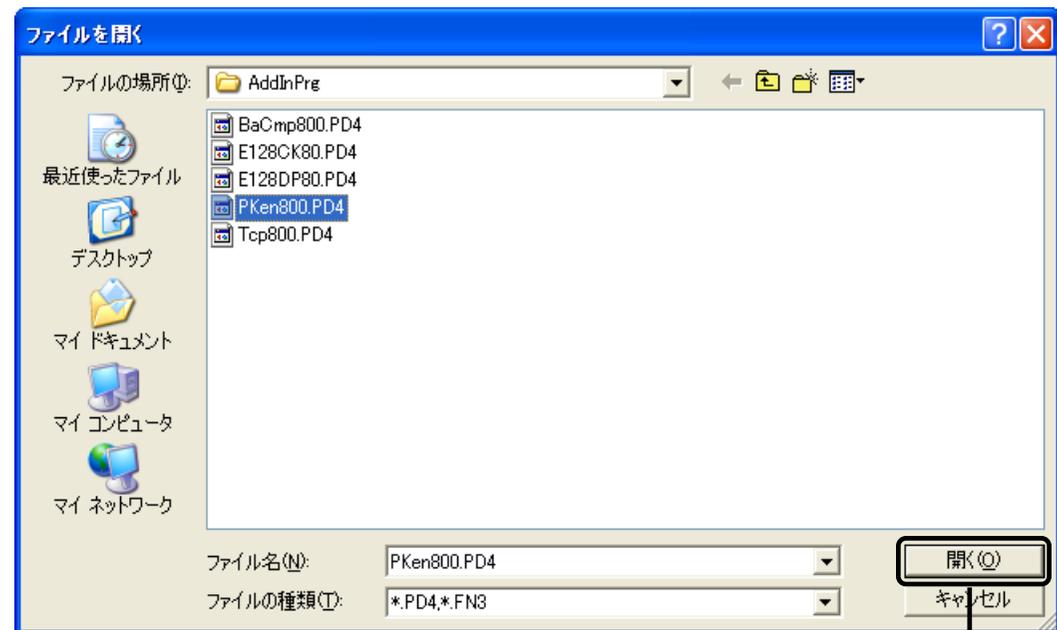
1 プログラム動作環境

アシストパック Pro BHT-800 のアドイン業務プログラムとして動作します。

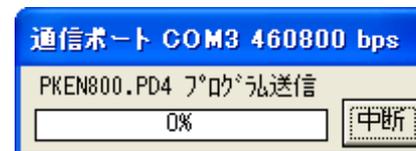
2 プログラムのインストール

2-1 アドインピックアップ検品プログラムダウンロード

アドインピックアップ検品プログラム「PKEN800.PD4」をBHT-800にダウンロードします。



PKEN800.PD4 を
選択してクリック



サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

M1 戻る **M2** 実行



ファイル受信

通信ポート選択

1. CU-RS232 (115.2K)
- 2. CU-USB (460.8K)**
3. Bluetooth
4. #####.PD4
5. \$\$\$\$\$\$.PD4

M1 戻る **M2** 選択



ファイル受信

通信ユニットに
セットしてください

M1 戻る CU-USB



通信ユニット
にセット

通信ポート COM3 460800 bps

PKEN800.PD4 送信中

43%



プログラム転送

正常終了

OK



2-2 ピッキング検品プログラムの動作設定

業務設定において、動作モードに「アドイン業務プログラム」を選択し、プログラム名に「PKEN800.PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows a software window titled "業務設定(入荷検品サンプル2.bnf)". The window contains several menu items at the top: 新規作成, 開く, 保存, 送信データ一覧外表示, 業務設定送信, 業務設定受信, 閉じる, 終了. Below these are: 業務追加, 業務削除, グループ項目追加, グループ項目削除, データ項目追加, データ項目削除. The main area is divided into sections: "設定画面選択" with buttons for "基本設定" and "動作設定"; "業務メニュー" with a list containing "入荷検品"; "BHT-800画面" with a list containing "入荷検品"; and a text area stating "設定するアドイン業務プログラムの画面表示になります。". In the center, there are input fields: "業務名" (入荷検品), "プログラム名" (PKEN800.PD4), and a dropdown for "動作モード" (アドイン業務プログラム). A button labeled "アドインプログラム設定" is located below the program name field.

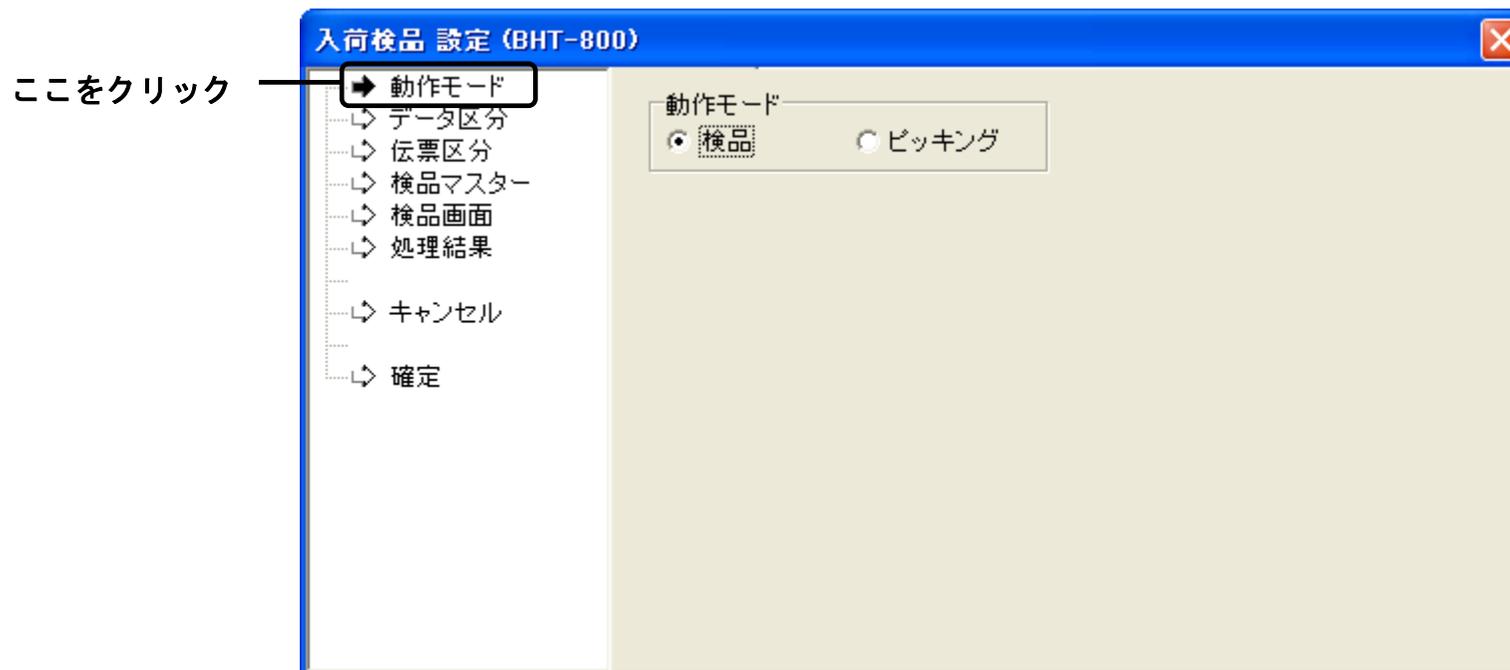
「アドイン業務プログラム」を選択

「PKEN800.PD4」を入力

このボタンをクリックしてください

1) 動作モード

検品モードまたはピッキングモードを設定します。

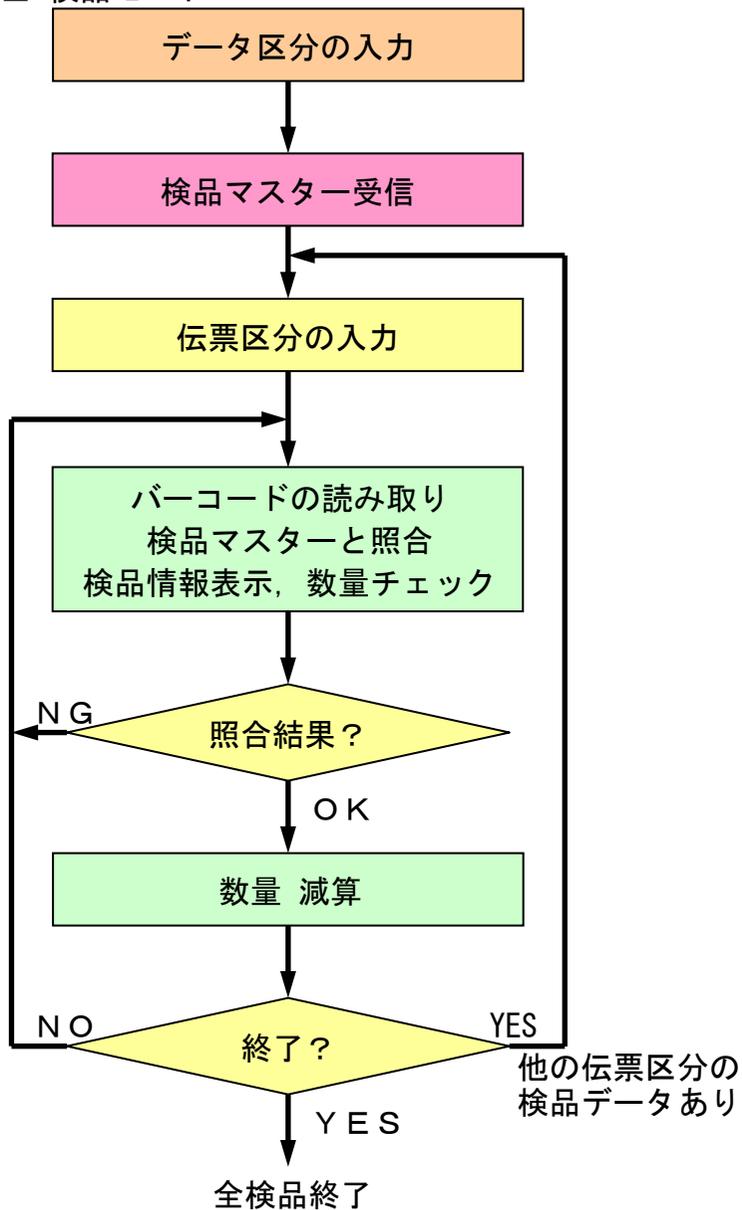


動作モード	説明
検品	入荷商品や品揃え後の出荷検品等に使用します。 検品マスターを受信して、バーコードを読み取って商品コードと数量を照合します。
ピッキング	出荷等における商品の収集と検品をします。 ピッキングマスターを受信して、画面に表示する情報に従って商品を収集し、 バーコードを読み取って商品コードと数量を照合します。

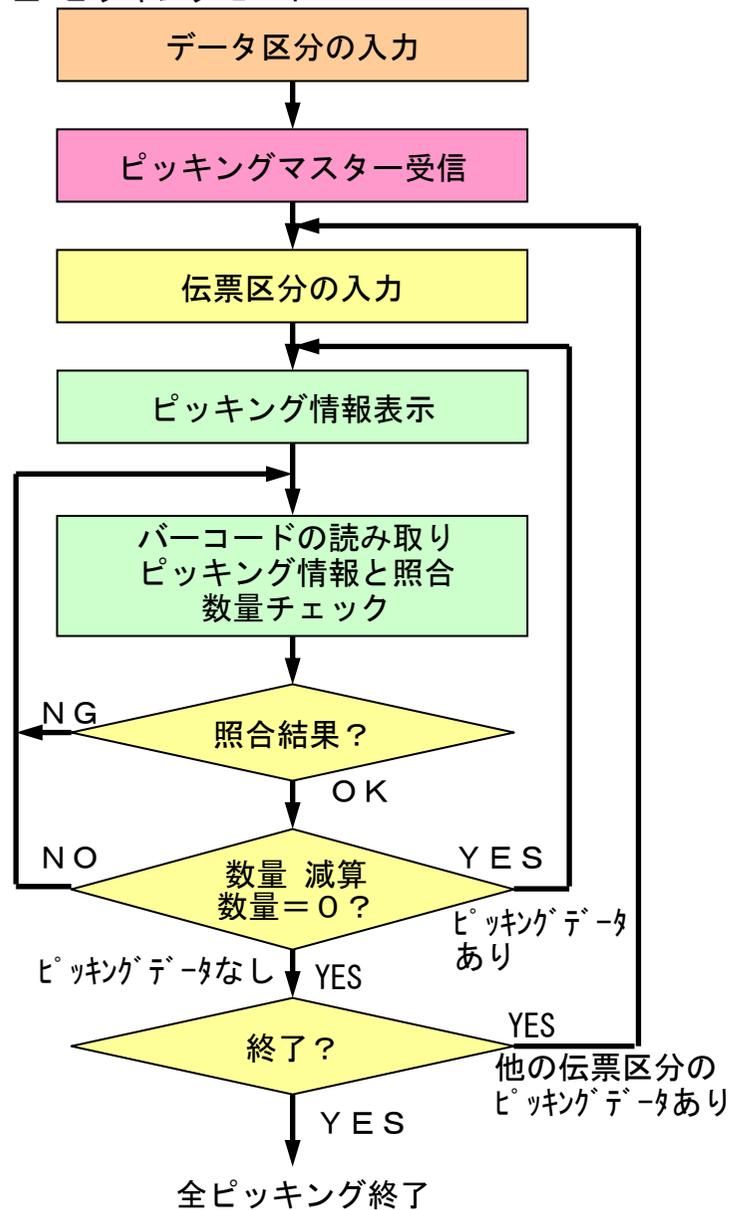


■ 操作手順

□ 検品モード



□ ピッキングモード



2) データ区分

担当者コードなどのデータ区分を使用する場合は、「データ区分」をクリックして [データ区分を使用する] をチェックしてください。

ここをクリック

「データ区分を使用する」をチェックする

マスターファイルを使用して文字列を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル」と「フィールド情報」を設定します。

書式：<検索キー桁数>, <参照データ桁数>
設定桁数範囲： 1 ~ 99

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列, 数字(0 詰め表示), 数字(0 7 ⁹ 以表示), 日付(YYYY/MM/DD), 日付(YY/MM/DD), 日付(MM/DD), 時刻(HH:MM)から選択します。
データ表示	入力データの標準表示, 横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列, 数字(0 詰め表示), 数字(0 7 ⁹ 以表示)のデータ入力桁数を、最大, 最小で制限します。
バーコード	[バーコード使用] をチェックして、[バーコード読取設定] ボタンをクリックするとバーコード読取設定画面を表示します。
文字列表示マスター	[文字列表示マスターファイルを使用する] をチェックして、表示用マスターファイルとフィールド情報を設定してください。 [マスターデータがない場合エラー]を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。



● バーコード読取設定

商品コード バーコード読取設定

読取バーコード

JAN/EAN/UPC 書籍コード 雑誌コード

ITF STF

NW7 Code39

Code93 GS-128/EAN-128/Code128 GS1 DataBar

QRコード PDF417 Data Matrix MaxiCode

EAN-UCC Composite

ユーザー定義

読取桁数 最大 桁 最小 桁

JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット

データチェックを使用する

入力データ選択 桁目から 桁

キャンセル 確定

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。NW7 の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
チェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	データ区分の場合は固定長になります。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
入力データ選択	GTIN変換、チェックデジットをデータに含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。



○ 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
書籍コード	先頭97のJAN-13と先頭19のJAN-13の2段バーコード読取 読み取ったデータは、26桁のデータになります。 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
ITF	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能
STF	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能 (BHT-800Bのみ)
NW7	チェックデジット (モジュラス16) の設定可能
Code39	チェックデジット (モジュラス43) の設定可能 数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
Code93	数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字 (0~9), 英字 (A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクスパンデッド, エクスパンデッドスタック
QRコード	マイクロQR, QRモデル1, QRモデル2 (BHT-800Qのみ)
PDF417	マイクロPDF417, PDF417 (BHT-800Qのみ)
Data Matrix	正方形 Data Matrix, 長方形 Data Matrix (BHT-800Qのみ)
MaxiCode	BHT-800Qのみ
EAN・UPC Composite	共通商品コード, EAN-128, RSSのCOMPOSITEバーコード (BHT-800Qのみ)
ユーザー定義	2段バーコード, 3バーコード (BHT-800Qのみ) の読取設定など、ユーザー独自に読取設定 をする場合に使用します。 ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>,, <第20読み取りコード> 不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。



□ Codabar (NW7)

書式： N [: [最小桁数 [-最大桁数]] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 39

書式： M [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 93

書式： L [: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



□ GS1-128/EAN-128/Code 128

書式： K [: [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ スタンダード2of5 (STF)

書式： H [: [最小桁数 [-最大桁数]]] [CD] [スタート ストップ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

□ GS1 DataBar (RSS)

書式： R



■ 読み取りコード (BHT-800Q)

読み取りコードには、2DコードのQRコード、PDF417、MaxiCode、DataMatrix、EAN・UCC Compositeおよび共通商品コード(JAN, EAN, UPC)、インターリーブド2of5(ITF)、Codabar(NW7)、Code39、Code93、Code128、GS1データバーがあります。

□ QRコード

書式: Q[: [シンボル種別 [最小コードバージョン] [-最大コードバージョン] [連結モード]]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロQR
M	QRモデル1
L	QRモデル2

シンボル種別を省略すると、マイクロQR、QRモデル1、QRモデル2を読むことができます。

最小コードバージョンと最大コードバージョンは、読み取り可能なQRコードの最小と最大のコードバージョンで、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コードバージョン	シンボル種別
1~4	S
1~22	M
1~40	L

最小コードバージョン ≤ 最大コードバージョンでなければなりません。

最小コードバージョンと最大コードバージョンの両方を省略すると、各シンボル種別の最大コードバージョンまでのQRコードを読み取ることができます。最大コードバージョンだけを省略すると、最小コードバージョンで指定したバージョンのQRコードしか読み取れません。

連結モードにEを指定すると、最大16分割されたQRコードシンボルの読み取りを許可します。

連結モードを省略すると、分割されたQRコードシンボルの読み取りは禁止となります。



連結コードの読み取りでは、ブザーの鳴動はは次のようになります。連結コードの最初のコードを読み取ると、ブザーが2回鳴動し連結コードの読み取りモードに入ります。その後は、連結コードを読み取るたびにブザーが1回鳴動し、最後のコードを読み取ると、3回鳴動して連結コードの読み取りを完了します。

連結コードの読み取り順序は任意ですが、すべての連結コードを読み取る必要があります。一度読み取った連結コードは、その連結コードの読み取りが完了するまでは、再度読み取りを行なっても読み取りません。

次の場合は、連結コードの読み取りが完了しなくても、連結コードの読み取りモードを終了して読み取ったデータはすべて破棄されます。

- ・ 連結コードでないQRコードを読み取った場合
- ・ 別の連結コードを読み取った場合
- ・ 読み取り口を3秒以上コードから外した場合
- ・ トリガスイッチを放した場合

連結コードの読み取り中は、連結コードの読み取りが終了するまで、QRコード以外の読み取りは禁止となります。

□ PDF 4 1 7

書式： Y [: [シンボル種別]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロPDF 4 1 7
M	PDF 4 1 7

シンボル種別を省略すると、マイクロPDF 4 1 7, PDF 4 1 7を読むことができます。

□ MaxiCode

書式： X



□ Data Matrix

書式： Z [: [シンボル種別 [最小コード番号] [-最大コード番号]]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	正方形DataMatrix
R	長方形DataMatrix

シンボル種別を省略すると、正方形DataMatrix，長方形DataMatrixを読むことができます。

最小コード番号と最大コード番号は、読み取り可能なDataMatrixの最小と最大のコード番号で、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コード番号	シンボル種別
1～24	S
1～6	R

最小コード番号 ≤ 最大コード番号でなければなりません。

最小コード番号と最大コード番号の両方を省略すると、各シンボル種別の最大コード番号までのDataMatrixを読み取ることができます。最大コード番号だけを省略すると、最小コード番号で指定したコード番号のDataMatrixしか読み取れません。コード番号とセル数の対応は以下の通りです。

正方形DataMatrix

コード番号	ROW X COL						
1	10 X 10	7	22 X 22	13	44 X 44	19	88 X 88
2	12 X 12	8	24 X 24	14	48 X 48	20	96 X 96
3	14 X 14	9	26 X 26	15	52 X 62	21	104 X 104
4	16 X 16	10	32 X 32	16	64 X 64	22	120 X 120
5	18 X 18	11	36 X 36	17	75 X 72	23	132 X 132
6	20 X 20	12	40 X 40	18	80 X 80	24	144 X 144



長方形DataMatrix

コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL
1	8 X 18	4	12 X 36
2	8 X 32	5	16 X 36
3	12 X 26	6	16 X 48

EAN・UCC Composite

書式： V

共通商品コード、EAN-128、RSSのCompositeバーコードを読み取ることができます。

共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式： A [:[コード] [1文字目 [2文字目]] [サプリメンタル]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13), UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

インターリーブド2 of 5 (ITF)

書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁



までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Codabar (NW7)

書式： N [: [**最小桁数** [-**最大桁数**]] [**スタート** **ストップ**] [**CD**]

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの**最小桁数**と**最大桁数**です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートと**ストップ**は、**スタート**キャラクタと**ストップ**キャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、**スタート**キャラクタと**ストップ**キャラクタも含まれます。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 39

書式： M [: [**最小桁数** [-**最大桁数**]] [**CD**]

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの**最小桁数**と**最大桁数**です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 93

書式： L [: [**最小桁数** [-**最大桁数**]]



最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ **GS1-128/EAN-128/Code 128**

書式： K [: [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ **GS1 DataBar (RSS)**

書式： R

□ **多段コード読み取り**

書式： &

多段コードを読み取るには、&を指定し、その後続けて読み取るコードを指定します。段数は3段まで設定できます。&、<1段目読み取りコード>、<2段目読み取りコード>、<3段目読み取りコード>と設定してください。

多段コードとして指定できる読み取りコードは、共通商品コード、インターリーブド of 25 (ITF)、Codabar (NW7)、Code 39、Code 93、Code 128です。

(1) 多段コード指定は1段で読む読み取りコードの指定とは独立しています。

例：共通商品コードEAN-8とEAN-13の2段の場合

& , A : B , A : A

例：共通商品コードEAN-8を1段とCode 39を2段の場合

A : B , & , M , M

2段コードは最後に指定します。



- (2) 2次元コードと多段コードを同時に指定で指定することができます。
 例：QRコードとCode 39 3段の場合
 10桁のコードでCD付き」
Q, &, M, M, M
- (3) 多段コード指定では先頭の2文字を指定することで読み取り順序を指定することが可能です。
 例：ITF 3段（文字指定付き）次の順序で読み取る場合－「“12”で始まるコード」, 「“34”で始まる6～10桁のコードでCD付き」, 「“56”で始まる12桁のコード」
&, I::12, I:6-10C:34, I:12:56
- (4) コード種類が同じでデータも同じコードが含まれる場合は読み取りができません。
 1段目 EAN-13 4912345678901
 2段目 EAN-13 12000000000003
 3段目 EAN-13 4912345678901
 上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。
&, A:A49, A:A12, A:A49
- (5) コード種類、桁数、条件が同じ指定を1段読み取りと多段コード読み取りに指定した場合、1段コードは読み取りができません。
 1段コード EAN-13 4901234567894
 多段コード EAN-13 4909876543214
 EAN-13 12000000000003
 上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。
A:A49, &, A:A49, A:A12
- (5) 多段コード指定ではITFは4桁未満のものを読み取ることができません。ただし、桁数を指定した場合は読み取ることができます。
- (6) 共通商品コードのサプリメントコードの多段コード指定はできません。



3) 伝票区分

入荷 No, 出荷 No, 伝票 No などの伝票区分を使用する場合は、「伝票区分」をクリックして [伝票区分を使用する] をチェックしてください。複数の伝票のピッキング/検品マスターを受信して、指定した伝票区分のピッキング/検品の処理を行います。

ここをクリック

「伝票区分を使用する」をチェックする。

バーコードを使用する場合は設定してください。

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
バーコード	[バーコード使用] をチェックして、[バーコード読取設定] ボタンをクリックするとバーコード読取設定画面を表示します。 「●バーコード読取設定」を参照してください。

4) ピッキング／検品マスター

「ピッキング／検品マスター」をクリックして、ピッキング／検品マスターのファイル名とフィールドを設定してください。

ここをクリック

BhtYmCom.exe プログラムからマスターファイルをリモート受信する場合にチェックしてください。

設定項目	説明
ファイル名	ピッキング／検品のマスターファイル名を設定します。(半角英数字12文字)
伝票区分	伝票区分を使用する場合に設定します。 伝票区分のデータ桁数を設定します。(1～20桁)
商品コード(検索キー)	商品コードのデータ桁数を設定します。(1～20桁)
商品情報	商品情報を表示するデータ桁数を設定します。(1～60桁)
ピッキング数／検品数	ピッキング数／検品数のデータ桁数を設定します。(1～8桁)

■ ピッキング/検品マスターファイル

検品マスターファイル	
ファイル名	PKENMST.TXT
フィールド設定	
伝票No	6桁
商品コード(検索キー)	13桁
商品情報	20桁
検品数	3桁

上記の設定の場合は、次のようにファイルを作成します。

□ PKENMST.TXTデータファイル

伝票区分：6桁 商品コード：13桁 商品情報：20桁 検品数：3桁

伝票区分	商品コード	商品情報	検品数
000001	2080001000010	アシストパック Pro BHT-800001	
000001	2082501000010	BHT-805BW	010
		・	
		・	
000001	2082501000010	CU-821	001

□ PKEN.FLDのフィールド定義ファイル

6,13,20,3

5) ピッキング／検品処理画面

商品コードのバーコード読取設定と数量入力設定をします。数量入力の場合は、入力した数量が残数以下なら残数から減算します。数量入力しない場合は、バーコードを読取る度に数量1として処理して、残数から1減算します。

設定項目	説明
商品コードの バーコード読取設定	[バーコード読取設定] ボタンをクリックして商品コードのバーコード読取を設定します。 「3-1バーコード読取設定」を参照してください。
数量入力	数量入力をチェックして、入力桁数を設定します。(1~ピッキング/検品数データ桁数)



6) 処理結果

ピッキング／検品の処理結果を送信する場合は、「処理結果」をクリックして「処理結果を送信する」をチェックしてください。

ここをクリック

「処理結果を送信する」をチェック

送信完了後にファイルを「消去しない」, 「確認画面を表示」, 「消去する」から選択してください。

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長(バイト)
1	仕入先コード	4
2	伝票No	6
3	作業日付A(YYYY/MM/DD)	10
4	開始時刻A(HH:MM:SS)	8
5	終了時刻A(HH:MM:SS)	8
6	作業時間(999999秒)	6

設定項目	説明
ファイル名	処理保存して送信するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字1～8文字>。 <拡張子(大文字半角英数字1～3文字)> (拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMPを使用しないでください。)
フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大8フィールドまで設定します。
データタイプ	ピッキング／検品処理の終了情報または処理明細を設定します。
フィールド設定	データタイプによりフィールドデータが違います。 終了情報： データ区分, 伝票区分, 作業日付, 開始時刻, 終了時刻, 処理時間から設定します。 処理明細： データ区分, 伝票区分, 商品コード, 商品名, 数量, 作業日付, タイムスタンプ時刻から設定します。



■ フィールド設定

処理結果には、伝票ごとのデータ区分、伝票区分、作業日付、開始時刻、終了時刻、処理時間の終了情報と商品ごとのデータ区分、伝票区分、商品コード、商品名、数量、作業日付、タイムスタンプ時刻の処理明細があります。

□ 終了情報の場合

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長(バイト)
1	仕入先コード	4
2	伝票No	6
3	作業日付A(YYYY/MM/DD)	10
4	開始時刻A(HH:MM:SS)	8
5	終了時刻A(HH:MM:SS)	8
6	作業時間(999999秒)	6

フィールドデータ	説明
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
伝票区分	伝票区分を設定した場合のみ設定できます。
作業日付 A(YYYY/MM/DD)	システム日付をYYYY/MM/DD (10桁)の形式で保存します。
作業日付 B(YY/MM/DD)	システム日付をYY/MM/DD (8桁)の形式で保存します。
作業日付 C(MM/DD)	システム日付をMM/DD (5桁)の形式で保存します。
作業日付 D(YYYYMMDD)	システム日付をYYYYMMDD (8桁)の形式で保存します。
作業日付 E(YMMD)	システム日付をYMMD (6桁)の形式で保存します。
作業日付 F(MMD)	システム日付をMMD (5桁)の形式で保存します。
開始時刻 A(HH:MM:SS)	開始時刻をHH:MM:SS (8桁)の形式で保存します。
開始時刻 B(HHMMSS)	開始時刻をHHMMSS (6桁)の形式で保存します。
終了時刻 A(HH:MM:SS)	終了時刻をHH:MM:SS (8桁)の形式で保存します。
終了時刻 B(HHMMSS)	終了時刻をHHMMSS (6桁)の形式で保存します。
作業時間(999999 秒)	作業時間を1~999999 (6桁)で保存します。



□ 処理明細の場合

データタイプ	処理明細	
フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長(バイト)
1	仕入先コード	4
2	伝票No	6
3	商品コード	13
4	商品情報	20
5	検品数	3
6	作業日付A(YYYY/MM/DD)	10
7	タイムスタンプ時刻A(HH:MM:SS)	8

フィールドデータ	説明
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
伝票区分	伝票区分を設定した場合のみ設定できます。
商品コード	ピッキング／検品の処理をした商品コード
商品情報	ピッキング／検品の処理をした商品情報
ピッキング／検品数	処理したピッキング／検品数
作業日付 A(YYYY/MM/DD)	システム日付をYYYY/MM/DD(10桁)の形式で保存します。
作業日付 B(YY/MM/DD)	システム日付をYY/MM/DD(8桁)の形式で保存します。
作業日付 C(MM/DD)	システム日付をMM/DD(5桁)の形式で保存します。
作業日付 D(YYYYMMDD)	システム日付をYYYYMMDD(8桁)の形式で保存します。
作業日付 E(YMMDD)	システム日付をYMMDD(6桁)の形式で保存します。
作業日付 F(MMDD)	システム日付をMMDD(5桁)の形式で保存します。
タイムスタンプ時刻 A(HH:MM:SS)	システム時刻をHH:MM:SS(8桁)の形式で保存します。
タイムスタンプ時刻 B(HHMMSS)	システム時刻をHHMMSS(6桁)の形式で保存します。



7) 設定更新

[確定] をクリックすると設定データを確定して更新します。設定は業務設定データに保存します。

入荷検品 設定 (BHT-800)

処理結果を送信する

ファイル名 RESULT.DAT フィールド数 6

データタイプ 終了情報

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長(バイト)
1	仕入先コード	4
2	伝票No	6
3	作業日付A(YYYY/MM/DD)	10
4	開始時刻A(HH:MM:SS)	8
5	終了時刻A(HH:MM:SS)	8
6	作業時間(999999秒)	6

送信完了後のデータ消去 消去する

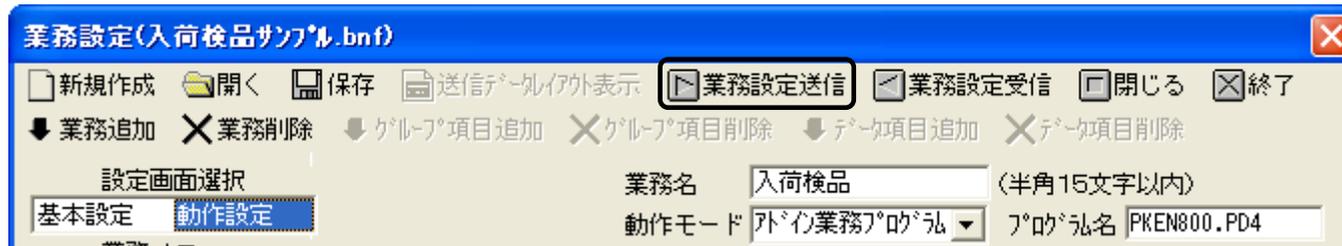
ここをクリック → **確定**

設定データを取り消す場合は、[キャンセル] をクリックしてください。

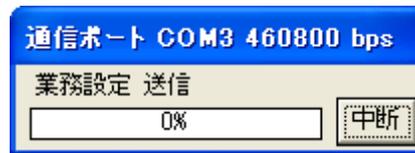


2-3 業務設更新

アドインピックアップ検品を設定した業務設定に更新します。



ここをクリックする



サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
- 5. 業務設定受信**
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
9. ファイル受信
10. リモート受信

M1 戻る M2 実行

M2 実行

業務設定受信
通信ポート選択

1. CU-RS232 (115.2K)
- 2. CU-USB (460.8K)**
3. Bluetooth

M1 戻る M2 選択

M2 選択

業務設定送信

通信ユニットに
セットしてください

M1 戻る CU-USB

通信ユニット
にセット



3 アドインピッキング検品プログラム実行

3-1 検品モード

データ区分を設定した場合

検品マスターファイルがない場合

業務メニュー ▼
1. 入荷検品

F1 Ver F2 サブメニュー M2 実行

M2 実行

入荷検品
データ区分
□

M1 終了 F4 受信 M2 確定

M2 確定

入荷検品
検品マスターファイル
PKENMST.TXT を
受信してください。

M1 戻る M2 受信

M2 受信

ファイル受信
通信ユニットに
セットしてください

M1 戻る CU-USB

検品マスターファイルがある場合

伝票区分を設定した場合

ファイル受信
PKENMST.TXT
受信中
000000

M1 中断 CU-USB

→

ファイル受信
受信終了

M2 確認

M2 確認

入荷検品
伝票区分
0000001
0000002
0000003
0000004
0000005

M1 戻る F4 受信 M2 確定

M1 : データ区分入力または業務メニューに戻ります
F4 : 検品マスターファイルを受信
M2 : データを確定して検品処理画面に移ります
▲, ▼ : データを選択します

→ 検品処理画面

バーコード読取を設定した場合
バーコードを読取り、その伝票区分の検品データがある場合は
検品処理画面に移ります。



■ 検品処理画面

□ 伝票区分を設定しない場合

数量入力しない場合

入荷検品	
商品コード	
.....	
商品情報	
.....	
残数／検品数	
..... /	
残件数	10
M1 取消	M2 未検品

数量入力する場合

入荷検品	
商品コード	
.....	
数量
商品情報	
.....	
残数／検品数	
..... /	
残件数	10
M1 取消	M2 未検品

商品コードのバーコードを読み取り、検品マスターと照合して商品情報と検品数を表示します。
 数量入力する場合は、検品の数量を入力します。
 数量入力しない場合は、数量を1とします。
 残数に表示商品の残り検品数を表示します。
 この処理を繰り返します。
 すべての検品を終了すると、終了画面を表示します。

M1：検品処理を取り消して前画面に戻ります。
 M2：未検品データを表示します。

□ 伝票区分を設定した場合

数量入力しない場合

入荷検品	
伝票区分	00000001
商品コード	
.....	
商品情報	
.....	
残数／検品数	
..... /	
残件数	10
M1 取消	M2 未検品

数量入力する場合

入荷検品	
伝票区分	00000001
商品コード	
.....	
数量
商品情報	
.....	
残数／検品数	
..... /	
残件数	10
M1 取消	M2 未検品

伝票区分ごとの終了画面

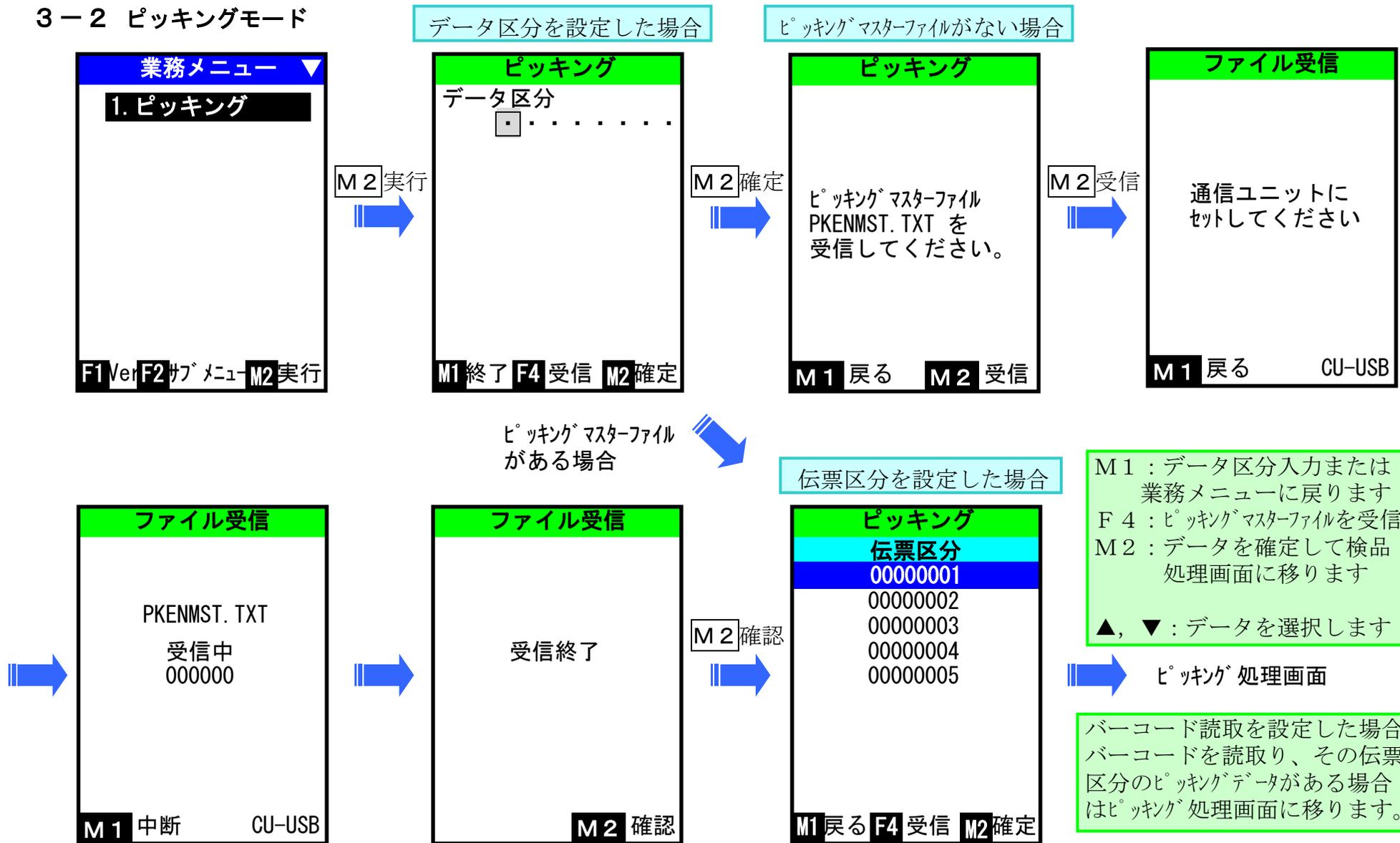
入荷検品	
伝票区分	00000001
検品処理を終了しました。	
M2 確認	

全検品の終了画面

入荷検品	
全検品処理を終了しました。	
処理結果を送信しますか？	
M1 はい	M2 いいえ



3-2 ピッキングモード



■ピッキング処理画面

□伝票区分を設定しない場合

数量入力しない場合

ピッキング	
商品コード	4963105110905
商品情報	BHT-805BW
残数／ピッキング数	10／10
残件数	10
M1	取消

数量入力する場合

ピッキング	
商品コード	4963105110905
数量
商品情報	BHT-805BW
残数／ピッキング数	10／10
残件数	10
M1	取消

ピッキングマスターファイルに登録されている順にピッキング情報を表示し、この情報の商品コードと商品のバーコードを照合してピッキングを行いません。ピッキング処理数は、数量入力の場合は、入力数を、数量入力しない場合は、1とします。残数に表示商品の残りピッキング数を表示します。この処理を繰り返します。すべてのピッキングを終了すると、終了画面を表示します。

M1 : ピッキング処理を取り消して前画面に戻ります。

□伝票区分を設定した場合

数量入力しない場合

ピッキング	
伝票区分	00000001
商品コード	4963105110905
商品情報	BHT-805BW
残数／ピッキング数	10／10
残件数	10
M1	取消

数量入力する場合

ピッキング	
伝票区分	00000001
商品コード	4963105110905
数量
商品情報	BHT-805BW
残数／ピッキング数	10／10
残件数	10
M1	取消

伝票区分ごとの終了画面

ピッキング	
伝票区分	00000001
ピッキング処理を 終了しました。	
M2 確認	

全ピッキングの終了画面

ピッキング	
全ピッキング処理を 終了しました。	
処理結果を 送信しますか？	
M1 はい M2 いいえ	



3-3 入力/データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、画面の最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力確定した
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードにCODE 3 9, CODE 9 3, CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した (例: 日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合)
バーコード 桁数エラー	バーコード 桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
バーコード 長オーバー	バーコード 長オーバー	バーコード読取桁数が 3 5 0 0 桁を超えた場合に発生します。
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラー発生
バーコードデータエラー	バーコードデータエラー	部分照合モードにおいて、フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない
バーコードフォーマットエラー	バーコードフォーマットエラー	バーコードのデータフォーマットに固定長以外を指定した場合のフォーマットエラー
商品コードが違います	商品コードが違います	ピッキングにおける商品のバーコード読取エラー
検品数オーバー	検品数オーバー	検品における数量オーバー
ピッキング数オーバー	ピッキング数オーバー	ピッキングにおける数量オーバー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。



3-4 処理結果送信

「処理結果を送信する」設定をすると、受信したマスターファイルの全処理を終了した場合、業務メニューに戻るときに未送信の処理結果がある場合、業務メニューからピッキング／検品を実行したときに未送信の処理結果がある場合に、「処理結果を送信しますか？」のメッセージを表示します。

□全処理を終了した場合

入荷検品

全検品処理を終了しました。

処理結果を送信しますか？

M1 はい M2 いいえ

ピッキング

全ピッキング処理を終了しました。

処理結果を送信しますか？

M1 はい M2 いいえ

□未送信の処理結果がある場合

入荷検品

未送信の検品処理結果があります。

送信しますか？

M1 はい M2 いいえ

ピッキング

未送信のピッキング処理結果があります。

送信しますか？

M1 はい M2 いいえ

□未送信の処理結果がある場合の業務メニュー画面

業務メニュー ▼

▶ 1. 入荷検品

F1 Ver F2 サブメニュー M2 実行

F4



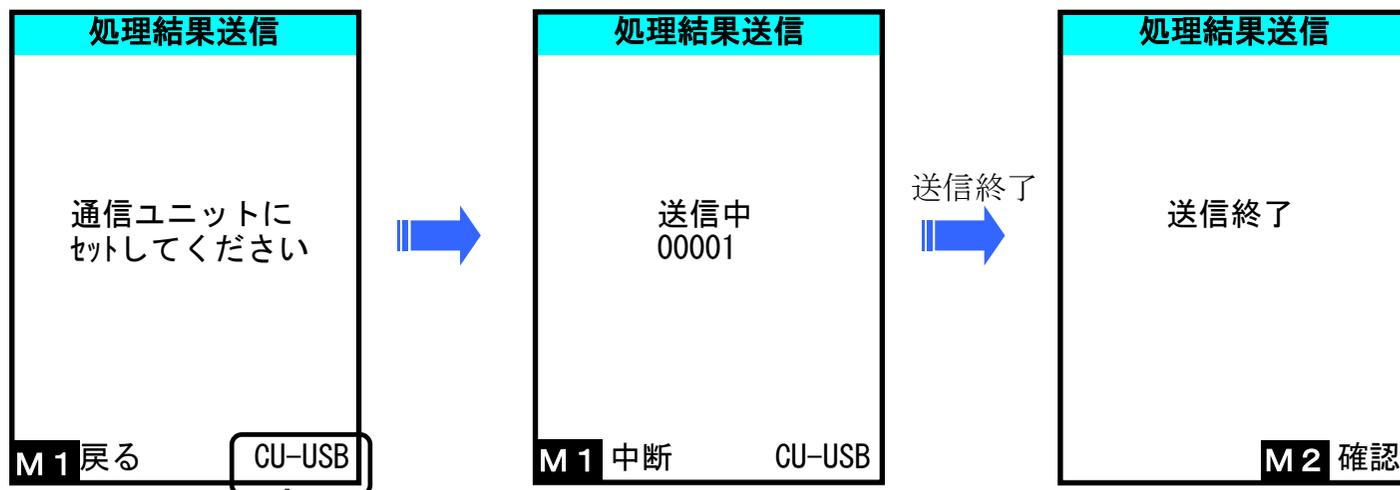
未送信データの全送信

未送信データをすべて送信しますか？

M1 取消 M2 送信

未送信の処理結果があると業務メニューのピッキング／検品業務の前に ▶ を表示します。F4 キーを押すと未送信データを全部送信します。





データファイルのファイル転送プロトコルを表示します。
 CU-232 : YModem (CU-RS232)
 CU-USB : YModem (CU-USB)
 Blueth : YModem (Bluetooth)
 アドイン通信プログラムの場合は、アドイン通信プログラム取扱説明書を参照してください。

送信完了後のデータ消去の設定に従って
 処理結果の消去をします。

